

Çalışma Takvimi

Dersin Kodu ve Adı: JPN419 Klasik Japon Edebiyatı

Hafta: 11

Haftalar	Haftalık Konu Başlıkları
11.Hafta	Japon Klasik Edebiyatı ve Deneme türü

徒然草

吉田兼好 (兼好法師)

序段

つれづれなるままに、日くらし、硯にむかひて、心に移りゆくよしなし事を、そこはかたなく書きつくれば、あやしうこそものぐるほしけれ。

第五十二段

仁和寺にある法師、年寄るまで、石清水を拝まざりければ、心うく覚えて、ある時思ひ立ちて、たゞひとり、徒歩よりまうでけり。極樂寺・高良などを拝みて、かばかりと心得て帰りにけり。さて、かたへの人にあひて、年比思ひつること、果たし侍りぬ。聞きしにも過ぎて、尊くこそおはしけれ。そも、参りたる人ごとに山へ登りしは、何事かありけん、ゆかしかりしかど、神へ参るこそ本意なれと思ひて、山までは見ずと言ひける。

すこしのことにも、先達はあらまほしき事なり。

第百九段

高名の木登りといひしをのこ、人をおきてて、高き木に登せて梢を切らせしに、いと危ふく見えしほどは言ふ事もなくて、おるときに軒長ばかりになりて、あやまちすな。心しておりよ、と言葉をかけ侍りしを、かばかりになりては、飛びおるるともおりなん。如何にかく言ふぞ、と申し侍りしかば、その事に候。目くるめき、枝危ふきほどは、おのれが恐れ侍れば申さず。あやまちは、やすき所になりて、必ず仕る事に候、といふ。

あやしき下臈なれども、聖人の戒めにかなへり。鞠も、難き所を蹴出して後、安く思へば、必ず落つと侍るやらん。